



「慢性呼吸不全の運動療法」

J. Arrighi de Casanova, A. Mastrangelo 著

伊 藤 宏 訳

現代生活の中で深刻な問題の1つになってきたものに呼吸不全がある。外科手術の高度化や麻酔学の進歩、ICUにおける呼吸管理などの必要性から、呼吸機能の改善に対する関心が医療関係者の中で高まっているといえよう。米国では Inhalation therapy として、1つの専門分野があるが、欧米では主に理学療法の業務に入っている。今後、我が国においても、この方面のニーズが高まると考えられるので、理学療法士はそのための準備を怠ってはならないだろう。

本書はフランスのもので、英・独・仏の専門書の中から訳者を選出されたものである。

本書は1, 2, 3部より構成されていて、1部では呼吸器の基礎知識(解剖, 生理学, 病理学)が整理されている。また、患者の検査方法についても種々記載している。

2部では、運動療法の手技の基本原則と実際、体位排痰法、リラクゼーション、職業復帰、そして酸素、理学、

温泉、気候療法などについても触れてある。

3部では、治療の適応として、日常見られる疾患の病状、機能検査、運動療法について述べてある。そして、最後に、呼吸器の外科手術の運動療法について説明が加えられている。手術の種類による特異性が明確にされている。

本書は呼吸の基礎的な知識から臨床上の応用にいたるまで一連の流れを保ち、かつ広範囲に及び、相互の関連性がある理解しやすいことと文章が簡素で馴染みやすいので入門書的であり、理学療法、看護婦などの学生の教科書としても使用できる。また、これから呼吸不全の運動療法に関与しようとするセラピストにとっても十分活用できるものである。ただし、データーの記載はないので、研究の参考文献とはなりえないだろう。

(B 5, 115 頁, 医歯薬出版, ¥3,800, 1978)

(有馬温泉病院 理学療法士 奈良 勲)

「脳性麻痺の類型別運動発達」

ベルタ・ボバース, カレル・ボバース 著

梶浦 一郎 監訳, 紀伊 克昌・他 訳

脳性麻痺児の早期発見, 早期治療の必要性がさげばれて幾久しい。今や、その発見と治療は生後6カ月前後が既に常識となりつつある。一部では、それよりも更に以前の乳児を対象とさえしている。

このような時代に、我々治療関係者は脳性麻痺特有の異常運動パターンや異常姿勢が習慣化、固定化してしまう前の初期徴候を的確に把握することが必要になってくる。

また、既に脳性麻痺の特有な運動発達をたどる子ども等については、その運動パターンの観察や分析は不可欠のものになる。当然ながら、それらを十分な心得、始めて現在の能力の評価や予後のための診断、そして治療計画が成り立つ。

この書は、今述べたことを実行していくにあたって、きわめて有益な参考書として利用できるであろう。書は

脳性麻痺児の発達を類型別に分類し、それぞれの異常発達を乳児期から青年期にかけての長い期間にわたって、盛り沢山の写真を混じえながら解説している。著者が“まとめ”で「この本で述べてきた脳性麻痺の類型別発達過程は、治療を開始する以前にすでに異常動作を自然発達させてしまった数多くの子ども達を観察してきた結果に基づくものである。(後略)」と述べている。願わくば、先達の貴重な臨床経験をもとにして我々は、早期に治療を開始することによって、これらに述べられてきた自然発達を阻止し、より正常な運動発達を促進していきたいものである。

関係者にお奨めしたい本である。

(A 5, 124 頁, 医歯薬出版, ¥2,300, 1978)

(大阪府済生会吹田療育園 作業療法士 山田貞雄)